

三つの坂

2023. 1. 19

「人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、そして“まさか”これは、複数の方が言っている言葉である。上り坂は、万事が好調で何をやってもうまくいくときである。一方、下り坂は、不調に陥って思い通りにならないときである。そして、三つめの坂が“まさか”である。これは、急に出現する。予測不可能である。巧妙な落とし穴のように、油断しているときに突然出現する坂である。

昔から、「一寸先は闇」という言葉がある。人生の好調時、上り坂のときに、まるでエアポケットに入ったかのように“まさかの坂”が出現して奈落の底に突き落とされたりする。また、下り坂のときに、追い打ちをかけるように“まさかの坂”が現れて、これでもかといった具合に決定的なダメージを与えてしまうこともある。

この頃思うのだが、我々は、もしかしたら「まさかの時代」を生きているのではないだろうか。2019年末、中国の武漢で新型コロナウイルスが発生した事実が報道されたとき、いったいどのくらいの人たちが、その後の世界的混乱を想像できただろうか。

21世紀に入ってからだけでも、アメリカ同時多発テロ、リーマンショック、東日本大震災・福島原発事故、英国のEU離脱、香港の民主化弾圧、世界各地の豪雨災害、そしてロシアによるクリミア侵攻に、ウクライナ侵攻と、枚挙に暇がない。これらの出来事は、人間の予測を超えて世界に“まさか”の打撃を与えた。

では、これから「まさかの時代」が終わり、上り坂の時代はやってくるのだろうか。きっと、やってくるだろうと考える人は少ないだろう。我々は、これまでも、そしてこれからも、何が起こるかかわからない、何が起こっても不思議ではない世界を生きていかなければならない。「まさかの時代」は、ずっと続いていくということである。

いったい、我々は、そんな時代をどのように生きてゆけばよいのだろうか。答えはわからないが、歴史から学ぶことは多い。歴史には if (イフ) は禁物という考えもある。だが、あのとき、もし〇〇だったらと考えてみることに価値があるように思う。そうしないと、選択を誤るという過ちを繰り返すことになりかねない。

歴史年表を見ると、上り坂があれば下り坂もある。何度かのまさかもある。歴史は、教科書のようなものである。これだけ、まさかが続くと、教科書も使えなくなりそうだが、歴史のどこかには何かしらのヒントがある。

まさかの時代でも、教育の歩みを止めるわけにはいかない。子どもたちの学びを保障していかなければならない。新型コロナウイルス感染症のまさかにより、そのことを思い知らされた。まさかの坂を越えれば、いつかは上り坂となるかもしれない。そうなることを願う。